



Q 平安座出身です。島のお葬式のとき、実家に石を投げられビックリしました。新築なので少し汚れて戸惑いました。なぜこんなことをするのですか？
(うるま市・M家・50代・女性)

A うるま市与那城・勝連(旧与那城町・旧勝連町)地域は、沖縄のしきたりを現代に継承するとともに格式の高い地域ですので、Mさんは貴重な体験をされましたね。私もうるま市与那城・勝連地域には、多くの講演会や法務というお葬式・法事などを担当させていたいただきますので、沖縄の先人のジンブン(知恵)と一緒に訪ねていきたいと思います。

お葬式に関連する投石のしきたり
平安座島を含む沖縄の一部の地域では、お通夜・出棺・お葬式・納骨の前後に、喪家(もけ・故人様の住宅)の壁(ウジョー(御門)・ユスミ(四隅)に石ころを投げるしきたりがあります。平安座島のみにとどまらず、那覇市や名護市などでも拝見したことがあります。その一連のしきたりは多岐にわたりますので、実際に司祭者(しさいしゃ)というお葬式の執行責任者の私が拝見した内容を以下にまとめてみました。

投石の作法……夕方や夜(お昼の場合もあります)、地域のウグワンジユ(御拝所)で拾った石ころ3個(1個・7個・12個などの場合もあります)を海水やお酒で清め、喪家の壁などに投石するというしきたり

投石の担当者……昔は故人様の干支(えと)を計算して該当する男性の方のみで行っていたそうですが、現在は地域の役員や親族の方などで行うこともあるというしきたり

告知……投石の担当者は、その前後に松明(たいまつ)を掲げ、地域を歩き、お葬式の告知を行うというしきたり

納骨後のしきたり……投石の関連として、納骨の後、砂浜に下り、アダンやゲーン(スキ)などで作成したアーチ(略式の門)をくぐるというしきたり

ウサンデーの作法……納骨の後の重箱などのウサンデー(下げ膳)は、その作法をねぎらうため、投石の担当者から召し上がっていたというしきたり

などなど。このような投石のしきたりは、現代において必ず行うというものではありませんが、平安座島のしきたりについて心得のある方々には、とても大切な意味合いがあるかと聞いています。

投石の意味について

地元の先輩方からムンナレー(学習)させていただきました。投石の理由の説には、**鎮魂の説**……沖縄の一部地域の納骨のとき、お墓のウナー(御庭広場)にてお酒やお水を3回こぼすミジマチ(水まき)のしきたりと同じく、故人様のシニマブイ(お亡くなりになられた魂)を、石ころを喪家に投石することにより、心安らかに鎮めようとする鎮魂の考え方

不殺生の説……昔の沖縄のお墓や火葬場への葬列のとき、先頭の方々が銅鑼(どら)や妙鉢(みょうはち)銅製のシンバル)を叩いて、道中の虫などの生き物を足で踏みつけて殺生しないよう追いつけていたしきたりと同じく、石ころを喪家に投石することにより、ご遺体に集まろうとする虫やマジモン・ヤナムンなどを追い払い、むやみな殺生を避けるという不殺生の考え方

イチミワカイ(生身別れ)、マブイワカシ(魂分かしの説……故人様に死を告知するため、喪家に投石し、この世界(イチミ)から離れて、グソー(後生)へ成仏することを願うイチミワカイ、マブイワカシの考え方
など、いずれも故人様を畏敬するしきたりであることがうかがえます。

最近では、「住宅の窓ガラスを割ってしまうかもしれないので、石ころが砂やサン(ゲーンなどを3本結んだ祭具)に変わったたり、松明を持って地域を歩いていたしきたりが、大雨のときなどは大変だということで、松明が懐中電灯に変わり、スクーターや自家用車に乗って時間短縮に努める家庭も増えてきています」と、地元の方々から教えていただいたことがあります。

時代に合わせて変化するウマイジマの投石のしきたりも、その由来を深く訪ねてみますと、ひとえに大切な故人様の幸せを願えばこそですね。そのようなありがたい地域に生まれ育ったことに誇りを持ち、できる範囲の中で次世代に大切な沖縄のしきたりを継承していただければと思います。

